

(1) 合格基準点

学科試験の合格は、**各科目**が合格基準点(足切点)を超え、**全科目**の合計が合格基準点に達していることである。

各科目の足切点は、**毎年50%**を超えた点数(I計画11点、II設備11点、III法規16点、IV構造16点、V施工13点)である。ただし、H27は、II設備・環境がかなり難しく1点低い10点となったので、今後も正解率によっては、±1点の補正がかかると判断できる。

5科目の合計(合格基準点)は、毎年、全受験者に対して上位者15~20%の範囲で決定されている。その点数は、125問に対して、**90点±4点**となっている(表1参照)。ただし、新試験制度が始まったH21は、比較的過去問の出題が多く、上位合格率が20%を切るまで総得点が上昇し、97点が合格基準点となった。

表1 学科試験の各科目と総得点の合格基準点
 新試験制度の初年度は過去問が多く合格率20%を切るのに97点となった
 総得点は90点±4点以内

	I 計画 (20点)	II 環境・設備 (20点)	III 法規 (30点)	IV 構造 (30点)	V 施工 (25点)	総得点 (125点)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
平成21年	11	11	16	16	13	97	42,569	8,323	19.6
平成22年	11	11	16	16	13	88	38,476	5,814	15.1
平成23年	11	11	16	16	13	87	32,843	5,171	15.7
平成24年	11	11	16	16	13	94	29,484	5,361	18.2
平成25年	11	11	16	16	13	92	26,801	5,103	19.0
平成26年	11	11	16	16	13	90	25,395	4,653	18.3
平成27年	11	10	16	16	13	92	25,804	4,806	18.6
平成28年	11	11	16	16	13	90	26,096	4,213	16.1

※上記数値は、公表された合格基準点等です(各点数以上が合格)。

合格率は15~20%で決定

例年に比較してかなり難しく科目の合格率から-1点の補正がかかった

(2) 得点分布

受験者の得点に対する人口分布は、**図1**の状況と推定する(研究会の推定図)。

最も人数の多いのは、合格基準点となる90点前後であり、全受験者の約3%であると推定する。1級建築士(学科試験)の受験者は、概ね2.5万人であり、その3%は約750人となる。つまり、90点前後の1点には、約750人がいるということになる(1点が重要)。

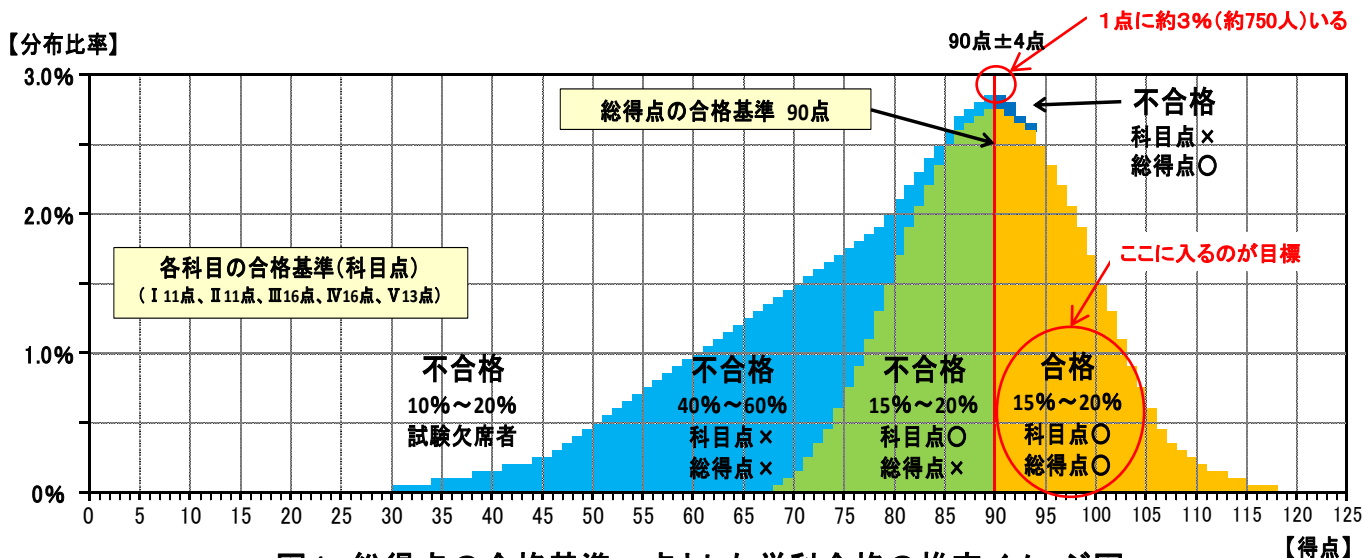


図1 総得点の合格基準90点とした学科合格の推定イメージ図

注) 図1は、数百名からの聞き取りを基に総得点90点を学科試験の合格とした場合の推定イメージ図ですので、あくまで参考として見て下さい。